

第32回 肝炎対策推進協議会

令和6年2月16日

資料2

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業について

厚生労働省 健康・生活衛生局

がん・疾病対策課 肝炎対策推進室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の見直し【案】（令和6年度～）の概要

B型・C型肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者の特徴を踏まえ、患者の医療費の負担軽減を図りつつ、患者からの臨床データを収集し、予後の改善や生活の質の向上、肝がんの再発抑制などを目指した診療ガイドラインの作成など、肝がん・重度肝硬変の治療研究を促進するための支援を実施。（平成30年12月開始、令和3年4月見直し）

【助成対象】

✓ B型・C型肝炎ウイルス起因の肝がん・重度肝硬変患者

✓ 年収約370万円以下

【70歳未満】	負担割合	高額療養費の限度額
年収約370万円以下	3割	57,600円 ※1
住民税非課税		35,400円 ※2

【70歳以上】	負担割合	高額療養費の限度額	
		外来	
年収約370万円以下	70-74歳 2割	18,000円 ※3	57,600円 ※1
住民税非課税 II	75歳以上 1割又は2割	8,000円	24,600円
住民税非課税 I			15,000円

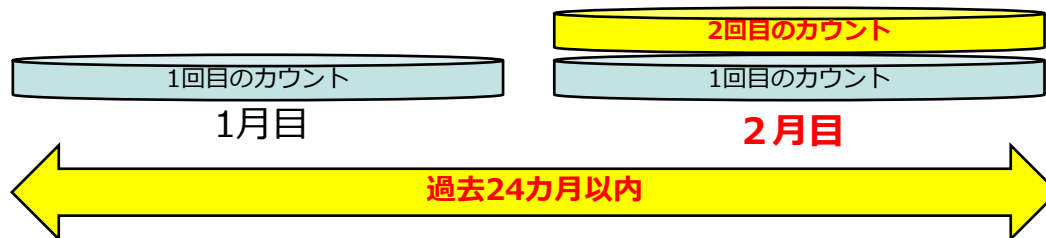
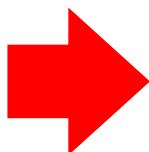
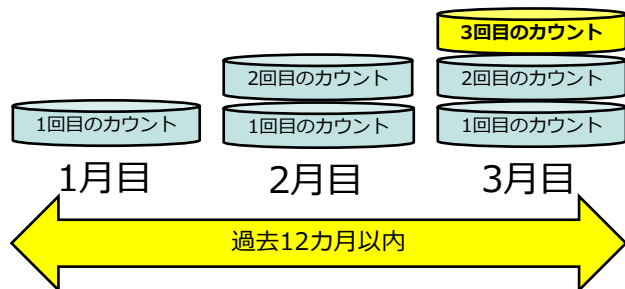
※1：多数回該当44,400円
（12月以内に4回目以上）
※2：多数回該当24,600円
※3：年上限14.4万円
後期高齢者2割負担の方
については令和7年9月
未まで配慮措置あり

✓ 入院医療

外来医療

✓ 高額療養費の限度額を超えた月が過去12ヶ月で3月目

⇒過去24ヶ月で2月目から自己負担1万円



令和6年度からの肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業見直し(案)等のポイント (助成要件の緩和、事業の利用促進)

助成要件の見直し(案)と期待される効果

見直し(案)の内容

- 入院・外来ともに、過去24ヶ月で高額療養費限度額を超えた2月目から助成対象とする。

見直しにより期待される効果

○ 対象範囲の拡大による患者の負担軽減

高額療養費限度額を超えた2月目から助成対象にすることで、その後、一般的には再発を繰り返し長期にわたり治療を要する肝がん患者の経済的な負担の軽減が図られる。

(肝がんの場合、治療開始時は年に1月～2月、その後は年に数か月もの治療を要することが多くなり、患者は長期にわたり療養が必要となる。見直しにより、より治療開始初期の段階から事業の利用が可能となる)。

○ 制度利用の促進と医療機関の負担軽減

高額療養費限度額が1月を超えた時点で、医療機関は対象患者に対し制度の案内を行い、患者は申請を行うことが可能になる。このことで制度が簡素化し、医療機関において患者への制度案内や患者の抽出がしやすくなり、制度利用の促進が図られる。また、これまで制度の対象であったにもかかわらず、制度が複雑などの理由で利用しなかった患者の掘り起こしも図られる。

事業の利用促進(案)

- 肝疾患診療連携拠点病院等において、**肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業**の利用促進に係る事業を実施し、その成果等を横展開することで、医療機関・患者のフォローを強化する。

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に係る普及啓発・利用促進の強化（案） （令和6年～）

目的・概要

肝疾患診療連携拠点病院等において、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に関する様々な取組を実施するとともに、その成果等を広く横展開することで、制度の更なる普及啓発・利用促進を図り、医療機関・患者のフォローを強化する。

実施方法

肝炎情報センター戦略的強化事業の中に、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の普及啓発、利用促進に係る事業を追加する。

取組（例）

- ・普及啓発資材の作成
院内連携や患者支援に関する動画、マニュアル等の作成。
薬局側の目線からみたマニュアルやQ & A等の作成。
- ・研修会等の実施
院内の連携強化に係る研修会等の実施。
肝疾患診療連携拠点病院以外の指定医療機関スタッフや薬局スタッフを対象とした研修会等の実施。
- ・院内連携体制の強化
院内の関係部署と連携を図り、対象患者を漏れなく抽出し、申請までのフォローを行うとともに、必要に応じて、都道府県や薬局とも連携し、患者をフォローするための体制を強化。

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の認定、助成実績

- 令和3年度と比較して、令和4年度の助成件数は増加
- 令和4年度、令和5年度の助成件数のうち、約半数以上は外来医療への助成

- 令和4年度末、令和5年度10月分までの助成実績を都道府県からの報告を基に、令和6年1月1日現在で集計。
- 実績値は変動する可能性がある。
 - ・入院の助成実績については、支払機関から都道府県に報告される実績をもとにしており、支払機関での医療費の審査状況により追加報告が生じる。
 - ・外来の助成実績については、患者から都道府県への償還請求の時期や都道府県での支払審査の状況により追加報告が生じる。

(件)

年月	H30	R元	R2	R3	R4	R5年度(暫定値)												
	年度	年度	年度	年度	年度	R5計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規認定	88	378	232	848	566	308	47	42	48	43	46	46	36	-	-	-	-	-
認定更新	0	48	107	145	503	336	25	53	46	65	57	57	33	-	-	-	-	-
助成件数	170	859	971	3,366	4,202	2,134	327	331	351	346	293	264	222	-	-	-	-	-
	うち外来の助成件数			1,778	2,495	1,098	169	186	190	187	144	124	98	-	-	-	-	-

※新規認定件数：本事業の対象になる患者として新規に認定を受けた件数。認定患者には参加者証が交付される。有効期間は原則1年。

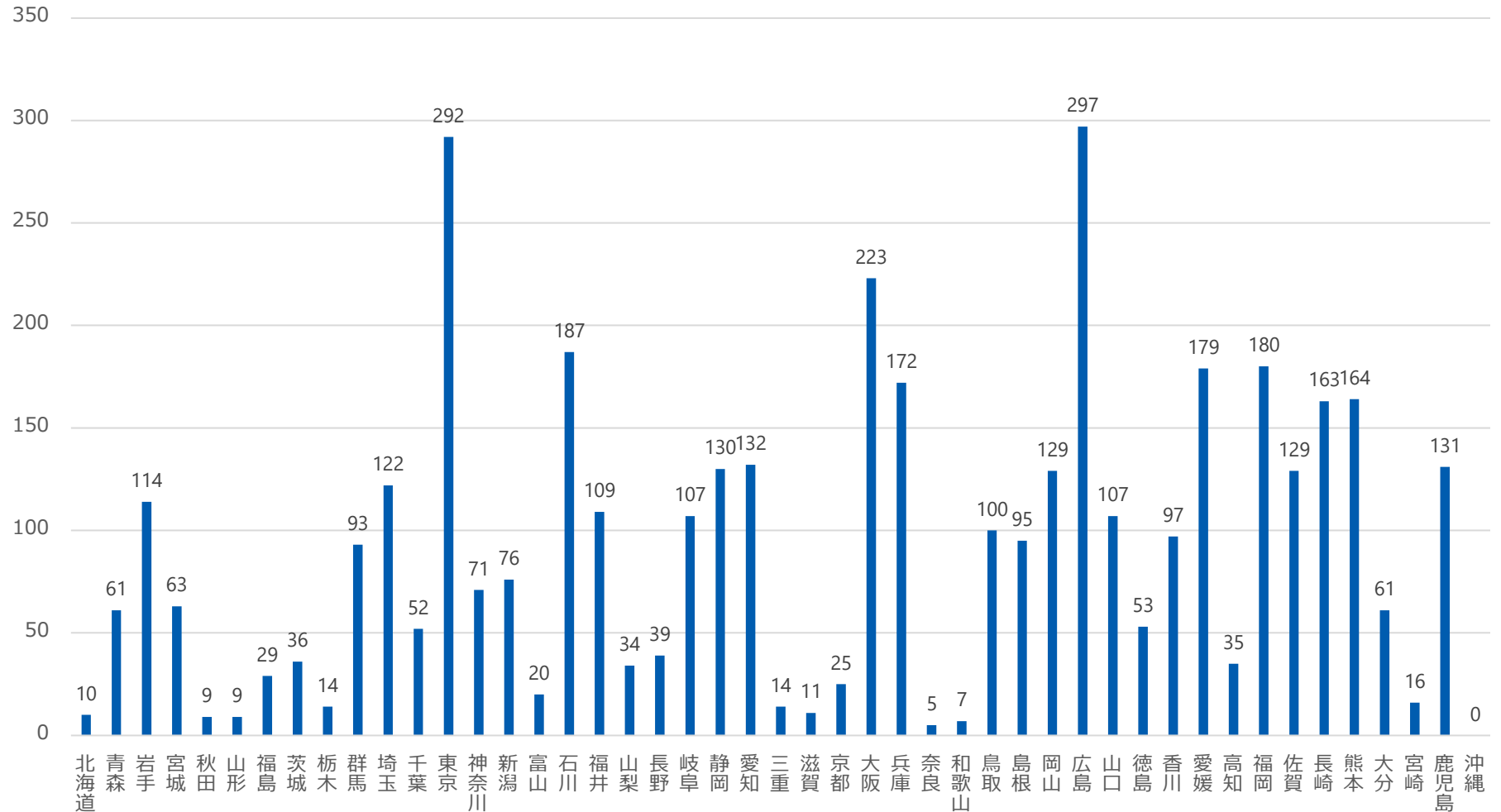
※助成件数：参加者証を交付された患者が、当該月に対象医療を受け、自己負担額が高額療養費限度額を超えて本事業による助成を受けた延べ件数。

※H30年度は、H30年12月(事業開始)からH31年3月までの実績。

都道府県別の肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の助成件数 (令和4年度)

	令和4年度
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業による延べ助成件数(件)	4,202

令和4年度肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の助成件数 (R6.1.1)

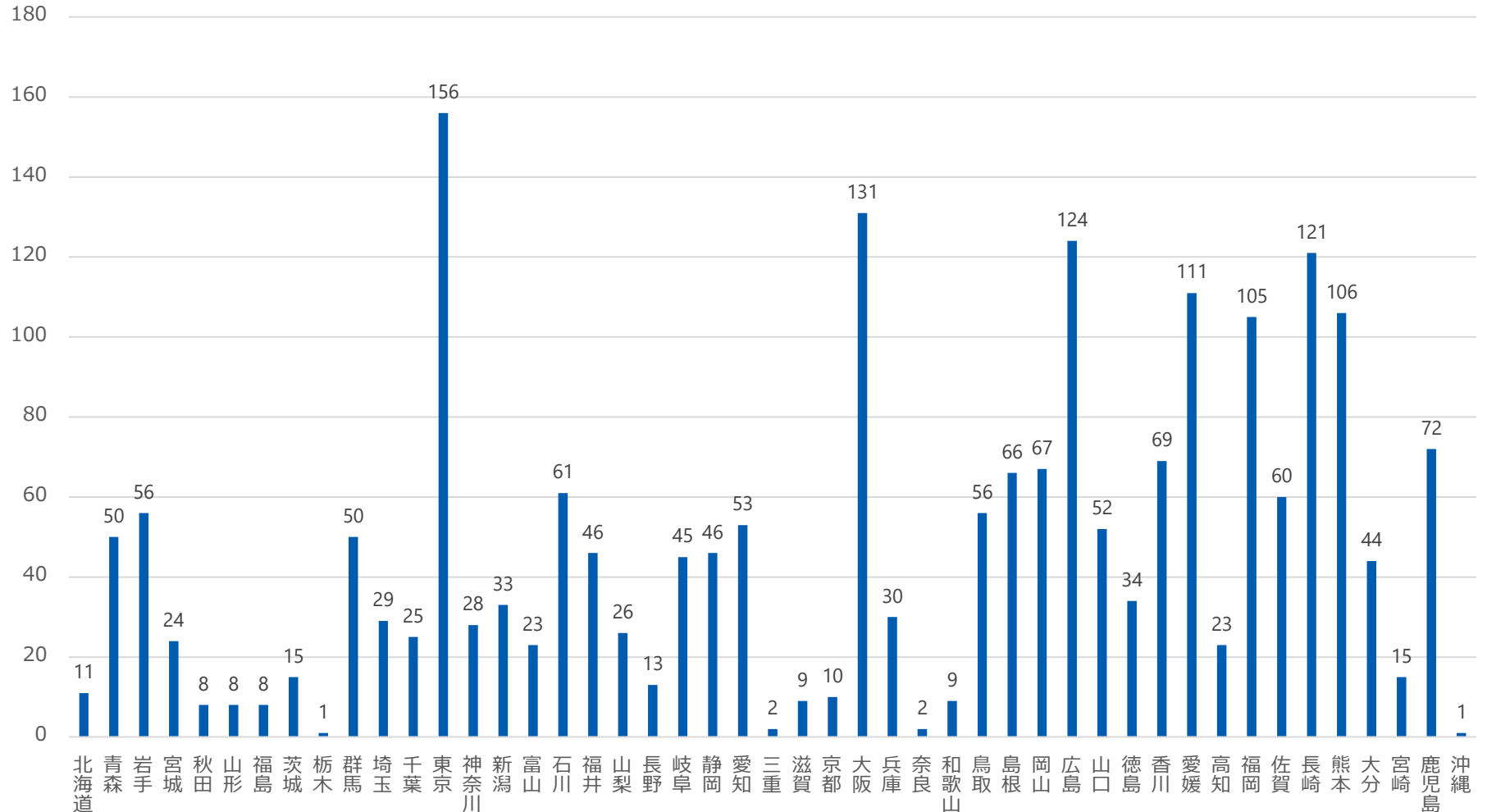


※都道府県からの実績報告を基に、令和6年1月1日現在で集計。患者から都道府県への償還請求の時期等により実績値は変動する可能性がある。

都道府県別の肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の助成件数【暫定値】 (令和5年度4月～10月)

	令和5年度(4月～10月)
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業による延べ助成件数(件)	2,134

令和5年度肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の助成件数 (R6.1.1現在)



※都道府県からの実績報告を基に、令和6年1月1日現在で集計。患者から都道府県への償還請求の時期等により実績値は変動する可能性がある。